

＜鑑賞を柱にした指導＞
中学校第2学年（事例11）

1 題材名 「総合芸術にふれよう」

2 題材について

本題材は、学習指導要領第2学年及び第3学年の内容のうち、以下に示す内容を指導する事例である。

B鑑賞 ウ 我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽の多様性を理解して聴くこと。

エ 音楽をその背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどから、総合的に理解して聴くこと。

生徒は小学校の鑑賞活動において、劇の音楽、管弦楽の音楽、郷土の音楽、人々に長く親しまれている音楽など、様々な種類の音楽や独唱（独奏）、合唱（合奏）、重唱（重奏）を含めた様々な演奏形態による楽曲にふれてきている。そこで中学校では、楽曲を単に聴いたり、表現したりするというだけでなく、その特徴を諸要素から感じ取り、背景となる文化・歴史、他の芸術とのかかわりから総合的に理解し、音楽の多様性を感じ取り、表現できる力をはぐくめるように本題材を設定した。総合芸術といわれる西洋のオペラと日本の歌舞伎を取り上げ、それぞれの特徴を見つけながら比較鑑賞することで、音楽と演劇、舞踊、文学、美術などがどのように結び付いているかを理解し、その良さを味わって聴くことができるようにしていきたい。また、オペラでの独唱・重唱・合唱と管弦楽、歌舞伎での長唄・下座音楽等、様々な演奏形態や表現方法によって、それらが生み出す表現効果がどのようなものであるかを感じ取らせたい。

3 題材の目標

○総合芸術における音楽と文化・歴史や他の芸術とのかかわりを理解し、その良さを味わって聴けるようにする。

4 教材

○オペラ「アイーダ」 ヴェルディ作曲

オペラ「アイーダ」はヴェルディが作曲した全26のオペラのうち24番目の作品にあたる。1870年、スエズ運河開通を記念して建てられたカイロ劇場のこけら落としのために委嘱された。祝典にふさわしく、絢爛豪華なオペラである。古代エジプトを舞台にした物語で、時代考証もなされ、舞台や演出にもきめの細かい制作がなされた。声楽的旋律美の充実、劇的感情表現の強調、舞台効果の十分な発揮が魅力的な作品である。また、アイーダトランペットと呼ばれる独特のトランペットによって演奏される「凱行進行曲」は、サッカー日本代表の応援歌としてもよく知られている。

○歌舞伎「勧進帳」 三世 並木五瓶作詞・四世 杵屋六三郎作曲

歌舞伎「勧進帳」は歌舞伎十八番の一つであり、1840年に市川海老蔵によって初演された。能「安宅」を歌舞伎化したもので、詞章や台詞の大部分が用いられており、舞台装置も能舞台にならって松を描いた羽目板のみとし、「松葉目物」と呼ばれる演目の先駆けとなった。源義経を守る武蔵坊弁慶の知略と富樫左右衛門の温情に焦点をあてて物語が展開される。

5 題材の評価規準（B 鑑賞）

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点4 鑑賞の能力
題材の規準	・総合芸術であるオペラと歌舞伎の音楽と他の芸術とのかかわりあいに関心を持ち、意欲的に鑑賞している。	・総合芸術であるオペラと歌舞伎の音楽表現の特徴に気付き、その効果を感じ取っている。	・総合芸術であるオペラと歌舞伎の音楽と他の芸術とのかかわりあいを理解し、特徴を感じ取りながら全体を聴き取っている。
学習活動の評価規準	①「アイーダ」と「勧進帳」それぞれの音楽、演技（台詞）、舞台装置、登場人物、衣装（化粧）について、関心をもって意欲的に特徴を見つけだしている。 ②グループでの話し合い活動に意欲的に取り組んでいる。	①「アイーダ」と「勧進帳」それぞれの主な登場人物の表現方法や伴奏の音楽について、その特徴を感じ取っている。	①「アイーダ」と「勧進帳」について、それぞれの特徴を理解しながら、曲全体を聴き、自分なりの価値を見いだして紹介文を書いている。

6 指導と評価の計画（2時間扱い）

学習活動	具体的な評価規準	評価方法	学習活動活性化への視点（指導上の留意点）
〈第1次〉 オペラ「アイーダ」と歌舞伎「勧進帳」を鑑賞し、それぞれの特徴をつかむ。（1時間）			
○「アイーダ」と「勧進帳」の一部分を鑑賞する。	観点1－① 評価の場面Ⅰ	ワークシート 付箋紙	・ 共通の諸要素を見つけながら鑑賞させる。 ・ 内容については簡単に触れておく。 ・ オペラと歌舞伎を見て、生徒が初めに抱いたイメージを大切にする。 ・ 特徴を見つけ出しやすいように、鑑賞する視点を与え、ワークシートにも記入しておく。 ①音楽 ②演技（台詞） ③舞台装置 ④登場人物 ⑤衣装（化粧）
○「アイーダ」と「勧進帳」の特徴を書き出す。			

○それぞれの視点からあげられた特徴を、共通しているもの、オペラ独特のもの、歌舞伎独特のものにわけて、整理する。			・ワークシートに記入した自分の意見の中からいくつかを選び、付箋紙に記入して黒板に貼らせる。 ・生徒からの意見を多く取り上げることで、様々な見方、感じ方があることに気付かせる。 ・音楽以外の演技、舞台装置、登場人物、衣装（化粧）からの視点について、特にオペラ独特のものと歌舞伎独特のものに注目し、特徴をおさえておく。 ・オペラのオーケストラピット、上演にかかわる人たちについてとらえさせる。 ・歌舞伎の回り舞台、せり、花道、背景、隈取について映像や写真を用いて、とらえさせる。
〈第2次〉 オペラ「アイーダ」と歌舞伎「勸進帳」の特徴を理解し、総合的に鑑賞する。（1時間）			
○「アイーダ」と「勸進帳」を鑑賞し、音楽の特徴について気付いたことを書き出す。	観点2－① 評価の場面Ⅱ	ワークシート	・鑑賞の視点を与え、気付いたことをワークシートに記入させる。
○グループに分かれて話し合い、意見を発表する。	観点1－② 評価の場面Ⅲ	観察発表	①主な登場人物の表現方法 ②伴奏の音楽 ・2つの視点のうち1つを選び、グループに分かれて意見交換をさせる。 ・なかなか発言できない生徒へは、同じ意見でもよいので、自分の言葉で発言することが大切であると伝える。 ・グループごとに意見をまとめて、発表させる。 ・オペラの独唱曲（アリア）、重唱曲、合唱曲とオーケストラの表現効果や台詞に全て音楽がついている特徴を説明し、映像とともにとらえさせる。 ・歌舞伎の長唄と下座音楽に使われている楽器とそれぞれの表現効果、日本音楽の諸要素の働きについて触れる。
○生徒の意見をもとに、それぞれの特徴が生み出す効果について学ぶ。			
○「アイーダ」と「勸進帳」の特徴を理解し、総合的に鑑賞する。	} 観点4－① 評価の場面Ⅳ	自己評価	・「アイーダ」または「勸進帳」のどちらかを選び、学習してきたことを振り返り、それぞれの特徴を思い起こしながら通して鑑賞させる。
○「アイーダ」か「勸進帳」のどちらか1つを選び、紹介文を書く。		ワークシート	・鑑賞する際の見どころ、聴きどころや、面白さ、魅力について、学習した用語を用いて記述させる。

7 本時の展開（2／2）

- (1) 本時の目標
- ・「アイーダ」と「勸進帳」の特徴を総合的に理解し、味わいながら鑑賞する。
- (2) 展開

学習活動	教師の働きかけ（◆評価規準）
1 前時の確認をする。	・前時の学習を振り返り、ワークシートからキーワードをおさえておく。
2 本時の目標を知る。	
「アイーダ」と「勸進帳」それぞれの特徴を総合的にまとめ、味わって鑑賞しよう。	
3 主な登場人物の表現方法、伴奏の音楽について特徴をまとめる。	・主な登場人物の表現方法、または伴奏の音楽についてのどちらかの視点を選び、特徴を見つけ出させる。 ・「アイーダ」…第2幕第2場「王様は聖なる神と王冠にかけて」～「エジプトとイシスの神に栄光あれ」 ・「勸進帳」…弁慶と富樫の問答
4 グループに分かれて話し合い、意見を発表する。	◆【音楽的な感受や表現の工夫】① ・同じ視点同士でいくつかのグループに分かれて話し合いをさせる。 ・各グループの発表から音楽についての特徴を共有化する。
5 発表された意見をもとに、それぞれの特徴が生み出す表現効果を学習する。	◆【音楽への関心・意欲・態度】② ・オペラの独唱曲（アリア）、重唱曲、合唱曲とオーケストラの表現効果や、台詞に全て音楽がついている特徴を説明し、映像とともにとらえさせる。 ・歌舞伎の長唄と下座音楽に使われている楽器とそれぞれの表現効果、日本音楽の諸要素の働きについて触れる。
6 「アイーダ」と「勸進帳」の特徴を理解し、総合的に鑑賞し、紹介文を書く。	・学習してきた内容を黒板に掲示し、それぞれの特徴を思い出しながら「アイーダ」または「勸進帳」のどちらかを選び、通して鑑賞させる。 ・「アイーダ」…第2幕第2場 ・鑑賞する際の見どころ、聴きどころや、面白さ、魅力について、必ず学習した用語を用いて書くように指示を出す。 ◆【鑑賞の能力】①

8 観点別評価の進め方

(1) 評価の場面Ⅰ

○この場面の学習活動
・「アイダ」と「勸進帳」の音楽、演技（台詞）、舞台装置、登場人物、衣装（化粧）についての特徴をワークシートに書き出す。
○学習活動における具体の評価規準
・「アイダ」と「勸進帳」それぞれの音楽、演技（台詞）、舞台装置、登場人物、衣装（化粧）について、関心をもって意欲的に特徴を見つけだしている。（観点1－①）
○評価方法
・生徒が記述したワークシートを授業終了時に回収し、その記述内容を評価する。
○「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する具体例
・全ての視点において「アイダ」と「勸進帳」それぞれの特徴を見つけ出し、具体的に自分の言葉で書き表している。
○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて
・キーワードとなる言葉やポイントを個別に助言する。

(2) 評価の場面Ⅱ

○この場面の学習活動
・「アイダ」と「勸進帳」を鑑賞し、主な登場人物の表現方法、または伴奏の音楽について気付いたことをワークシートに書き出す。
○学習活動における具体の評価規準
・「アイダ」と「勸進帳」それぞれの主な登場人物の表現方法や伴奏の音楽について、その特徴を感じ取っている。（観点2－①）
○評価方法
・生徒が記述したワークシートを授業終了時に回収し、その記述内容を評価する。
○「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する具体例
・オペラの独唱・重唱・合唱の表現方法に気付き、その効果を感じ取っている。
・歌舞伎に使われている楽器や、長唄、下座音楽の特徴をつかんでいる。
○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて
・どのような楽器が使われていたか、速度や強弱の変化はどうだったかなど具体的な問いかけをし、気付きを促す。
・登場人物の再確認をし、それぞれどのような表現をしているかなど、さらに具体的な視点を与えるようにする。

(3) 評価の場面Ⅲ

○この場面の学習活動
・グループに分かれて話し合い、意見を発表する。
○学習活動における具体の評価規準
・グループでの話し合い活動に意欲的に取り組んでいる。（観点1－②）
○評価方法
・グループでの話し合い活動の様子を観察する。
・全体の場での発表の様子を観察する。
○「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する具体例
・積極的に話し合い活動に取り組んでおり、グループ内で意見を言い合ったりまとめたり、周囲の生徒に対しての働きかけがみられる。
○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて
・ワークシートに記入した自分の意見を発表させたり、自分と違う考えや意見についてメモを取るよう働きかける。

(4) 評価の場面Ⅳ

○この場面の学習活動
・「アイダ」と「勸進帳」の特徴を理解し、「アイダ」か「勸進帳」のどちらか1つを選び、紹介文を書く。
○学習活動における具体の評価規準
・「アイダ」と「勸進帳」について、それぞれの特徴を理解しながら、曲全体を鑑賞し、自分なりの価値を見いだして紹介文を書いている。（観点4－①）
○評価方法
・生徒が記述した紹介文を授業終了時に回収し、その記述内容を評価する。
○「十分満足できると判断される」状況（A）と評価する具体例
・学習した用語を用いて、鑑賞する際のポイントや面白さ、魅力について具体的に紹介文に書き表している。
○「努力を要すると判断される」生徒への指導の手だて
・学習してきたことを思い出させ、キーワードをつかめるよう助言する。
・どのようなところが面白く感じたか、あるいは印象的だったか具体的に問いかけ、気付きを促す。

テーマ：この曲の特徴を聴き取ろう

鑑賞曲「ゴリウオーグのケーキウォーク」

☆ 主なふしは聴き取れたかな？この主なふしに合う、歌詞を考えてみよう！！

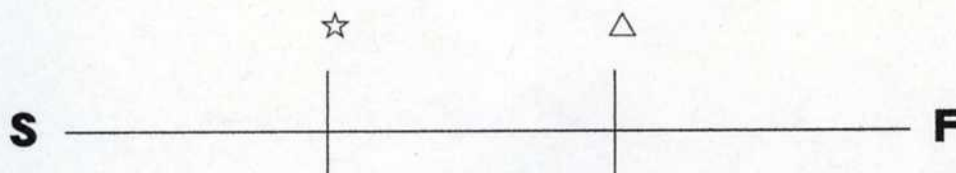


♪ できたら、音楽に合わせて口ずさんでためしてみよう！！

☆ メモ



喜・怒・哀・楽



私の「ゴリウォーグのケーキウォーク」

組

名前：



部 分	曲の感じ	物 語
始 め の 部 分		
途 中 の 部 分		
終 わ り の 部 分		

☆

△

鑑賞プリント

6年 組 名前

テーマ：曲想を感じ取ろう

鑑賞曲「ゴリウオーグのケーキウォーク」

ドビュッシー : 作曲

- ☆ それぞれが、音楽にあった物語を作ることができましたね。
では最後に、今度この曲を聴く人に向けて、この曲の紹介文を書いてみよう。

